

# 多様な担い手による獣害対策 三重県多気町丹生区一

- 地域で設置した侵入防止柵の管理・強化を営農組合(農)が中心的に担って、イノシシ、シカの被害を防いでいる。
- サル被害の対策として自治会(区)が中心となって追い払い隊「モンキーバスターズ」を組織し、テレメトリー調査による位置情報を活用して田畑に出没する前に発見・追い払いを実施し、被害を防いでいる。
- 立梅用水土地改良区、勢和地域資源保全・活用協議会と連携した一般社団法人「ふるさと屋」が丹生地区を含む勢和地域全域を小型電気自動車を使って獣害パトロールを実施し、その情報をHP、サル情報(回覧)や掲示板を使って地域内外に発信し、視察等の対応も行っている。

## 多気町丹生区の課題



多気町位置図

- ハナレザルは昔から見たが、10年ほど前からサル群れも姿を現すようになった。5年ほど前から、集落内に侵入し、屋根に登ったり菜園を荒らし始めた。
- 農業被害だけでなく通学する子供にも被害が及びかねないとの懸念がでた。

## 主な対策

- イノシシ・シカ対策
  - ・ 侵入防止柵の設置
- サル対策
  - ・ 区長の呼びかけに応じて、参集した住民有志でサル追い隊(モンキーバスターズ)を結成(結成当時11名 現在15名)
  - ・ 住民からの通報・受信機での確認等に基づいて地区に出現・接近したサル群れの追い払いを行う。
  - ・ 数人が連絡して、地区外に出るまでパチンコ等で群れを誘導し、山中を追尾する。
  - ・ エアガン・パチンコ・ロケット花火(各人)、受信機(3基) ← 発信機は町が装着
  - ・ 出動状況
    - 2015年(5ヶ月間) で51回、のべ144人
    - 2016年(1年間) で54回、のべ74人
    - 2017年(1年間) で39回、のべ104人

## 対策の効果

- 集落内部への侵入は激減した。
- 農作物被害面積も9割減少した。
- 出荷用野菜についても安定生産が可能となった。

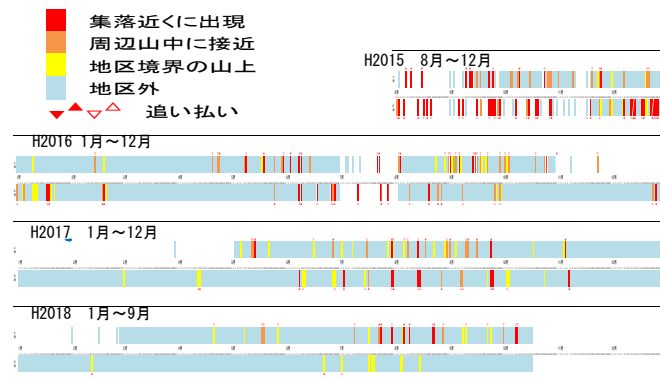
### 【被害面積の変化】

被害面積 (10a)	対策前 (H27)	対策後 (H29)
稲・麦・大豆	2.2	0.1
野菜・果樹等 (菜園を含む)	6.8	0.7

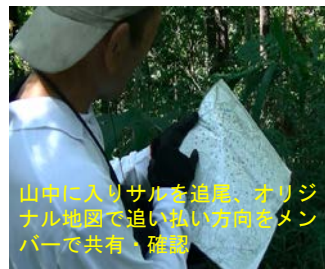
### 【追い払い回数の変化】

H27年度	H29年度
約3日に1回	約9日に1回

### 多気町丹生地区周辺へのサル群れ出没状況



テレメトリー調査によりサルの来襲前に追い払いが可能に



山中に入りサルを追尾。オリジナル地図で追い払い方向をメンバーで共有、確認



電気自動車と追い払い装備一式

## 獣害対策勉強会

- サルの生態や対策、町内のサルの行動域に関する話を聞く獣害対策勉強会を行った。このことが、モンキーバスターズ設立のきっかけとなった。

# 多様な担い手による獣害対策 ー三重県多気町ー

## ◆誰がどのように

当時の区長の呼びかけに多数の地区住民が賛同し取り組みを開始。

## ◆当初は取り組みに厳しい意見も…

「捕獲しなければ根本的な解決にならない」、「追い払うだけでは隣接集落との追い払い合いになる」といった厳しい意見も挙がったが「何もしなければ何も変わらない、追うしかない」との声に多数の住民から賛同を得た。

## きっかけ

- ・サルが群で姿を現すようになった。
- ・やがて集落内に侵入するようになり農作物の被害が顕在化してきた。
- ・農業被害だけでなく通学する子供にも被害が及びかねない

## Step1 (H27) 有志でサル追い隊を結成

- 60～70代の有志11名でモンキーバスターズを結成した。
- 区役員、営農組合の役員やオペレータも参加した。

## Step2 地域の一体的な活動

- 地域住民からのサルの目撃情報の提供体制を構築した。
- 通報を受ければ、隊の連絡網により集合し、複数人で追い上げを行った。
- サル群の行動パターンもわかってきたため、対応方法のコツをつかめた。

## Step3 新たな技術などの導入

- サル群の位置を効率的に把握するために、受信機3基を活用し、効果的な追い払いを可能にした。
- 受信機を使える隊員を育成した。

## Step4 より広域的的な活動へ

- 農業・農村の活性化を目的に生活サポート等の事業を行う「小さな拠点」として、「一般社団法人ふるさと屋」が立ち上げられた。
- 当団体の生活サポートの一環として獣害パトロールがあり、モンキーバスターズの一人が団体のスタッフとして当業務を担うこととなった。
- 小型電気自動車で巡回し、1次的な追い払いやサル群の位置情報を団体HPにて情報提供している。

## 取組に当たっての秘訣

- 隊員のモチベーション向上のために、追い払い道具の選定にも工夫し、扱いやすいガスガン、パチンコ、ロケット花火を導入した。
- 技術の向上にも努め、発信機と受信機を用いることで、サルの来襲前に回り込み先手を打ち、効果的に追い払うことが可能となった。
- 人材育成にも努め、活動開始後に新たな隊員が4名も増えた。

## 今後の取り組みについて

- 当地区においては「ふるさと屋」をはじめ営農組合、多面的機能等の地域活動が活発な地域であり、住民の連携体制が構築されている。獣害対策についてもこれら地域活動の一環として、多くの住民が関わっていきけるよう取り組む。

## 多気町勢和地域における獣害対策の概要



取組を経て…

## Step5 継続的な活動

- 出勤実績や効果を「見える化」したり、反省会を開き、以降の活動に活かすことでモチベーションアップし、継続的な活動へつなげていく。



ふるさと屋による立梅用水管理道路を使った小型電気自動車による獣害パトロール